

様式 2

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	232・廣あかつき	第1学年 第2学年 第3学年	道徳 728、道徳 729 道徳 828、道徳 829 道徳 928、道徳 929	中学生の道徳自分を見つめる 1 中学生の道徳ノート自分を見つめる 1 中学生の道徳自分を考える 2 中学生の道徳ノート自分を考える 2 中学生の道徳自分をのばす 3 中学生の道徳ノート自分をのばす 3
取扱内容 〔学習指導要領の道徳〕の目標、内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生命の尊厳について 第1学年では、生命とはどのようなものか、この世に生を受けたことや今生きていることについてどのように感じるかを考える活動等、第2学年では、自分自身の生命をどのように燃やし輝かせたいか、生命の尊厳とはどのようなことかを考える活動等、第3学年では、生命の尊さやかけがえのなさについてどのように考えるか、誰かのために生きるとはどのようなことかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</li> <li>○ 自然について 第1学年では、自然環境を守るために自分にはどのようなことができるかを考える活動等、第2学年では、これから自分たち人間は自然とどのように関わっていけばよいかを考える活動等、第3学年では、自分たち人間にとって自然とはどのようなものかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</li> <li>○ 伝統と文化について 第1学年では、これからどのように郷土やそこに住む人々と関わっていきたいかを考える活動等、第2学年では、長く受け継がれてきた郷土の伝統や文化にはそこに住む人々のどのような思いが込められているのかを考える活動等、第3学年では、郷土の発展のために自分にできることはどのようなことかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</li> <li>○ 情報化への対応について 第1学年では、インターネットを扱い、利用する場合には自主性や自律性、自由と責任を大切にしなければならないのはなぜかを話し合う活動等、第2学年では、SNSを扱い、情報機器に振り回されないためにはどのようなことを心がけるとよいかを話し合う活動等、第3学年では、インターネットを扱い、その利用に際してどのような責任が伴うかを話し合う活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</li> </ul>			
内容の構成・排列・分量等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成・排列 言語活動については、各学年の別冊に感じたことや考えたことを記入する欄を配置し、問題解決的な学習については、各学年に問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置し、体験的な学習については、各学年に役割演技による学習を用いた教材を配置するなど、生徒が多面的・多角的に思考できるよう工夫されている。</li> <li>○ 内容の分量※ 第1学年～Aは8教材、Bは8教材、Cは14教材、Dは8教材、Eは3教材、全体で41教材であり、総ページ数は別冊を含め238ページとなっている。 第2学年～Aは8教材、Bは8教材、Cは12教材、Dは10教材、Eは3教材、全体で41教材であり、総ページ数は別冊を含め222ページとなっている。 第3学年～Aは10教材、Bは7教材、Cは13教材、Dは8教材、Eは3教材、全体で41教材であり、総ページ数は別冊を含め218ページとなっている。</li> </ul>			
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年の別冊に、心に残った教材やその理由を記入する「心に残っている授業の記録」を配置し、自らの道徳的成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒が自らを振り返るための工夫がなされている。</li> <li>○ 各学年に、家庭や地域の人との関わりを促す教材や、別冊に、家族との交流を促す記述欄を配置し、家庭や地域との連携を深めるための工夫がなされている。</li> <li>○ 道徳の学習の進め方を示すページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインを採用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>			
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北海道と関連のある教材は、「襟裳のこと」など5箇所取り上げられている。</li> <li>○ いじめの問題については、いじめをなくすためにどのような自分でありたいかを考える活動等を取り上げている。</li> </ul>			

※ 「内容の構成・排列、分量等」の「内容の分量」のAは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。